

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0370500779
法人名	社会福祉法人 大谷会
事業所名	グループホーム おおたに
所在地	岩手県花巻市湯口字松原55番地23 (電 話) 0198-25-2245

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1		
訪問調査日	平成20年10月21日	評価確定日	平成20年11月27日

【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 1 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤 人, 常勤換算 9 人	

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	900 円	

(4)利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 86.1 歳	最低 74 歳	最高 100 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	恵ライフクリニック、狩野歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成18年度に開設された新しいグループホームであり、自然に恵まれた環境である。きれいな豊沢川が流れ田園豊かな湯口町の西部に位置し、近くには民家もあるため地域との交流を行いやすい環境にある。母体の特別養護老人ホームが隣にあるため緊急時には24時間連絡がとれ、また日常的にバックアップ体制が確立されており、非常に恵まれた安心感のあるホームである。住み慣れた地域で尊厳ある人生を、その人らしく豊かに安心して暮らせることを理念に、ホーム長を中心に職員と利用者が一体となって明るい雰囲気が漂っており、利用者個々の自分らしい生活が維持・継続出来るよう、利用者の対場に立ったきめ細やかな援助が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 子供会、地域団体や駐在所や消防署との交流が活発で、写真や広報も互いにやりとりをされているので絆がさらに深まっている。理念の唱和は日課となり、職員はそれぞれ利用者の顔を頭に浮かべながら唱和をしている。食事の手伝いは当番表をつくり見事に実行され、利用者も張り切っているように見えた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 理事長の思いを、ホーム長が強い改善意識をもって実行し、職員が素直に明るく職務を遂行している姿がはっきり見えた。自己評価は全職員で取り組み、推進委員会での意見も参考にし、改善にもつなげている。自己評価の検討にあたっては、職員の年齢により考え方や受け止め方の違いがあったものの、意見交換として良い機会であった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヵ月毎に開催している。毎回7名程の出席があり、利用者の生活状況や改善点の取り組み状況や前回の会議の懸案事項について経過を報告し、それについての意見なども頂いている。このことは後日職員会議で検討し、前向きに取り組むように努力している。また、ホーム内では解決しにくい事でも、運営推進会議のメンバーに相談に乗ってもらう事で解決されている。さらに前進することを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族から要望や意見がある際には、速やかに対応できるよう取り組んでおり、家族から話しやすい雰囲気ができている。また、家族アンケートによりホームでの生活の様子が良く伺えた。「肉親の様な接し方をしてくれている」「設備が清潔である」「食事が家庭的でありがたい」などと、家族の声が何より状況を物語っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 前回の課題でもあったものであるが、子供会や地域団体や老人会や踊りの団体等、幅広く交流され、スケジュールが適度に組まれており、かなりの努力がなされている。また、駐在所の警察官が、毎月広報を持参して見聞していくことがあるなど、地域の方々と一緒になって喜怒哀楽を共に味わっていることは素晴らしいことである。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で尊厳ある人生を、その人らしく豊かに安心して暮らせる場所を理念としており、サービスに当たっては、常に理念に結びつけて行うことを目標に努力されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は毎日理念の唱和をする際に、利用者の顔を頭に浮かべながら実行している。独自の表を作成しながら、ケアプラン作成やケース検討時に理念に沿っているか、各自利用者を担当しながら責務を確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、公民館活動と一緒に廃品回収や祭りなどに毎年参加している。老人会の花と緑の会や、多くのボランティア団体とも交流を深め、さつきの手入れも盛んに行っている。地元の子供会との交流も盛んで、みこしの来訪など、共に楽しんでいる。		子供会との交流が、地元公民館活動の一貫として認められ、活動状況の写真がホーム、公民館に掲示されている。駐在所の警察官自ら広報を作成して、毎月ホームに持参し情報連絡や、ホームの状況を把握して見守っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み、振り返りと気づきを大切にしている。また、運営推進委員会での意見も参考に、ホーム長を中心に改善に取り組んでいる。外部評価での意見も積極的に検討され、すばらしい成果が見られた。		年齢的にバランスの良い職員が配置され、年代により受け取り方の違いもあるが、個々の職員の考えが反映できるように取り組まれている。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月ごとに開催されており、参加されている委員は地域を代表される方々である。7名程で会議をされているが、ホームの生活状況の報告やサービス評価後の報告や改善点の取り組み等、幅広く話し合わせ、協力をして頂いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には市から高齢者担当職員に出席頂き、行政的な意見や指導もいただき、サービスの向上につなげている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの生活状況を家族面会時に報告しており、3ヶ月毎に預かり金の残高と明細の確認をしてもらい、確認印をもらっている。その他にケース記録のコピーを郵送してお知らせしている。またホームでの活動記録を家族に渡し、家族からもコメントを頂いている。広報は3ヶ月に一度、写真を中心としたものを発行しており、好評を頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置してある。電話や来訪時やカンファレンス時に管理者や職員と直接意見や苦情を出しやすい雰囲気になっている。家族からの要望はミーティング等で話し合い改善する様にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には、利用者へのなじみの職員となるように、異動は行わない方針である。従って家庭的雰囲気が強く漂っていた。今年度は一人だけ採用されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画、新任者研修計画があった。内部、外部研修は、積極的に参加されていた。また、新任職員は、自己評価を行い、指導者が再評価を行っている。		緊急時対応の学習会も、毎月1人1人の意見を聞きながら身になる様に行っている。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会や花北ブロックのグループホーム定例会に参加し、交流を行っている。定例会や施設見学や意見交換などのネットワーク作りに積極的に参加している。同業職員実習受け入れも行い、職員の質の向上や情報交換に努めている。		管理者の強い指導力と、しっかりした母体組織に支えられた、大変恵まれた環境下にあるホームであることを強く感じられた。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	大谷荘のショートステイや、デイサービスの延長の気持ちでグループホームでの生活をしている利用者がおられる。また自宅で暮らしていた時と同じく月に一度同級会、敬老会、小学校のOB会に参加することで、納得して過ごされている利用者もおられた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	認知症とはいえ、レベルの高い方々が多いので、常に職員の方で教わるが多々ある様子である。特に伝統的なこと、社交的なこと、困った時の対応等、人生の大先輩として受容し対応されている。		玄関の花を生けてもらったり、プロ並のさしこの作品を廊下に飾ったり、まさに尊厳ある人生を、その人らしくと言う言葉通りであった。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望を生かし、毎日の介護に生かしている。利用者の行動や話し合いから希望を把握し、対応している。希望の聞き取りが困難な場合は表情により要望を汲み取れるように確認しながら対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人からの要望を時間をかけて聞き取っている。カンファレンスには家族の参加もあり、意見、要望を頂き、それらを職員全員で検討し、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	2月、7月、11月に見直し時期を予定したが、現在まで入院者もなく、特に異常がなく安定しているので、見直しを行う必要はなかった。状態の変化がみられた際には、その都度プランの見直しを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望をとり入れ、外出、外泊の支援が行われている。通院時は家族の状況に応じて送迎するが、費用は頂いていない。ケガをされ歩行困難の際には、隣接(母体)の車椅子で病院まで送迎している。夜間の防災体制、管理栄養士、訪問診察等、多くの柔軟な支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人や家族が決めており、受診の際には、かかりつけ医に利用者の状態変化を伝える様にして、事業所との連携を図っている。また、施設には看護師もおり、その都度適切な対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	5月に家族会を開催し、指針として医師がターミナルの状態と判断した時には退所となる旨をお知らせした。また、家族の要望として、隣接する特別養護老人ホーム大谷荘の入所の確認がとられていた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念に基づき、プライバシーを守り記録物の取り扱いには注意し、机の中に整理されている。声かけとしては「…して下さい」ではなく、「…お願いします」と声がけしている。		洗濯物の提出時も利用者の誇りを損ねない様に、個々に集めるのではなく、さりげなくまとめて集めたり、等々、こまやかな気配りは見本となる程である。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員には各々担当の利用者がおり、「今日は何もしないの?」と聞かれたら、散歩や花壇の草取りなどをしていて。その人の癖や個々の体調を考慮して、その人に合わせたペースで支援している。帰宅願望のある利用者には、本人の好んで行う台所仕事等により気分を変えるよう支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	手づくりの献立表で、利用者により苦手な食べ物は代替食で対応している。月一度は隣接する特別養護老人ホームのバイキングに参加したり、誕生日には本人の希望を確かめ支援している。また、準備、片付けは当番制で公平に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人、家族の希望を聞き対応している。入浴を嫌がる利用者には、タイミングをみて入浴と言う言葉は使わないで、工夫して接している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月に2回、特別養護老人ホームから大型バスと運転手を借りて全員でドライブに出かけている。運転手付きのバスをお借りできる、大変恵まれたホームである。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	好きな時にウッドデッキから外に出られ、きれいな花壇の草取りも無理のない姿勢で行える様に上面を高くし工夫されている。また、利用者から希望を聞き、バスハイク、ドライブ、文化祭などに外出支援を積極的に行っている。		足、腰の弱い方は、車椅子対応とし、安心して出かけられる様に支援している。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。外出希望がある時は職員と一緒に散歩している。出かけた様子を見逃さないようにしており、常に職員間の連携を密にし、安全に、臨機応変に対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	花巻消防署本署と南消防署の協力を頂き、火災、地震の防災訓練を、日中と夜間を想定して年2回行っている。夜間は隣接の母体施設から5名の協力が得られる体制となっている。非常用品は母体法人の大谷荘で用意されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体法人内の管理栄養士による献立のもと、栄養バランスに留意した献立となっている。年2回管理栄養士と一緒に食事し、食事の状況を確認されている。一日の食事量、水分摂取量についての指導が行われており、個別のチェック表によって水分摂取量、排泄状況がわかる。チェック表は5段階で表示され、ひと目でわかるように工夫されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールから季節毎の花が見られるよう、花壇に彩りも美しい花が咲いていた。桜の木も植えられ、来春にはチューリップが咲くように球根を植える準備もされていた。廊下の天窓からの採光の工夫により、明るく清潔な雰囲気があった。居室のドアには小窓があり、さりげなく見守りが出来るよう工夫がされている。テーブルやソファが適所に配置され、休憩、懇談がとれる様にしてあり、一人で部屋の出入りの管理がしやすい場所に配置されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、非常に綺麗で、使い慣れた鏡台や箆笥、大正琴等により、ご本人らしい生活をしていた。家族の写真、ダンス、大正琴、鏡台などの使い慣れたものも持ってきており、着替えの好きな利用者は一日に何度も箆笥をあけ着替えをされていた。他には大正琴を弾かれたり、刺し子による作品が廊下に飾られており、居心地良く支援されていた。		